

## 編集後記

4、5年前から始まり、もう恒例になっているようだが、『月刊みんぱく』2010年1月号は干支にちなんでトラ特集号である。トラといえば、民博のある関西には、トラをシンボルとする野球チーム阪神タイガースがあり、館員にもことのほか阪神に思い入れの強い人がおおい。2003年、阪神が18年ぶりにリーグ優勝した時は大騒ぎで、その際有志が買ったいくつものスポーツ紙がいまだに休憩室のマガジンラックに色あせたままおかれているほどだ。

ところでトラは、ヨーロッパや中近東のライオンに対し、アジアでは信仰や寓話にはよく登場する。その影響か、トラのいない日本でも、古くから玩具や絵画のモチーフとして親しまれてきた。民博では、年明けに干支にちなんだ展示イベントが企画されているが、今年は例年以上に盛り上がりそうである。民博には他球団ファンとともに、私のようにタイガースはおろか、野球自体にも関心の薄い館員も少数ながらいて、普段は息をひそめているが、イベントにはそれを跳ね返す意気込みで全館あげて取り組んでいる。乞うご期待。(庄司博史)

### 次号の予告

## 特集 総研大20周年記念座談会

## 月刊みんぱく 2010年1月号

第34巻第1号通巻第388号 2010年1月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫  
編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎 庄司博史  
中牧弘允 信田敏宏 山中由里子  
協力 財団法人 千里文化財団  
制作 京都通信社  
印刷 市蔵図書

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係に  
お願いします。  
\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

## みんぱくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

- 予定時間 14時30分から15時30分(予定)。
- 常設展示場観覧料が必要です。
- \*都合により、予定を変更することもあります。

国立民族学博物館(みんぱく)の研究者が、来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!  
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしています。

1月の開催

1月10日(日)

話者: 内藤直樹(研究戦略センター機関研究員)

話題: 難民キャンプでみる長い夢:  
アフリカ難民の暮らしと文化

場所: 展示場内休憩所



別の難民キャンプに移動するソマリア難民

1月17日(日)

話者: 杉村棟(本館名誉教授)

話題: 遊牧民・村人の絨毯と都市の絨毯——技法とデザイン  
場所: 西アジア展示

1月24日(日)

話者: 平井京之介(民族文化研究部准教授)

話題: 地域をつくる博物館——タイと水俣の事例から  
場所: 展示場内休憩所

1月31日(日)

話者: 佐藤浩司(民族社会研究部准教授)

話題: 建築空間をいかにして伝える?  
場所: 展示場内休憩所

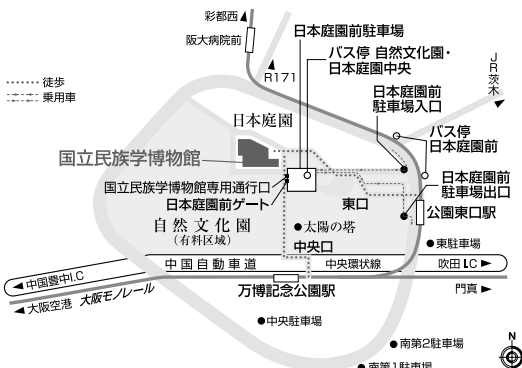
## 1年間みんぱくに何度でも入館できる

「みんぱくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

常設展は何度でも無料で入館できます。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいあります。

- ◆特典◆常設展の無料入館◆特別展の観覧料割引◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話06-6877-8893/平日9:00~17:00)



### 交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

